

こころの子育て 「誕生から思春期までの48章」

Q20.『ほめるのが大事』と言われますが、どうも苦手です。」

A.「わが子のよいところを五つ考えてみたらどうですか。」



精神分析学者（河合 隼 雄）

日本人はほめることが苦手です。そしてそんなにほめたら子どもがつけあがらないかと、よく心配します。でもほめたらつけあがるなんてことはまずありません。もっと子どもを信用していい。子どもを信用できないのは、つまり自分を信用していないからなんですよ。

なぜ自分を信用できないかという、これまで日本人は、そんなに「自分」というものがはっきりしていなくて、「自分」よりも「世間」を信頼してきたんです。世間様とながっていて、みんなずっと安心してたわけですよ。それが急に「世間はともかく、あんたはどう思いますか」なんて言われても困るわけです。

子どもをほめるのが大事だというときに、みんながよく間違えるのは、ウソを言うんですよ。お世辞を言ったりね。ウソをつく必要は全然ないんです。ウソもお世辞も、ここにもないことを言ってるんだから。子どもはたまりません。こころの中で思ってることは、もう見事なくらい伝わっています。特に大事な場面ではそうです。

それをごまかせるのが、普通のおとな同士の関係なんです。だけど、傷つきやすい人、弱い人ほど人の気持ちがよくわかるというのがあるでしょう。簡単に言うと、病気になったときには、医者の態度だけを見ていて、何を考えているのか、すごくよくわかる場合がありますね。あれと同じで、子ども達はおとなより弱い立場だから、おとなの気持ちがよくわかるんです。

ただ放っておくとか悪口ばかり言うぐらいだったら、もちろん、ウソでもほめた方がいいんです。ただし悪口だけに比べたら、ですよ。

ほんとに子どもをほめようと思ったら、すごい努力がいりますよ。たとえば学校でクラスに生徒が30人いたとして、その30人のひとりをほめようと思ったら、ものすごく大変です。その子がほめてもらってうれしい、と思うには、その子が「うん」と納得することを言わなければならないわけでしょう。だからだれにでも、「きみ、よくできるね、賢いね」なんて言ってもダメなんです。それはものすごいエネルギーがいりますよ。

前に聞いて笑ったのは、小学校の先生が、何年生か忘れたけど、子どもに「自分のよいところを五つ書きなさい」って言ったら、だれもすぐには書けないんですって。みんな書こうと思ったら、悪いところはよく覚えてる。勉強はしてないし、お母さんの言うことはあんまり聞いてないし。

「そうやなしにいいことを書くんですよ。家に帰って聞いてきなさい。お母さんに聞いたらわかるから」と宿題にしたそうです。ところが家でお母さんに聞くと、ほとんどみんな怒られてしまうんです。「何言っとりますか。五つもありますか」とかね。それか、ものすごい皮肉を言われるんです。「あなたは、ものすごいよい子だし、勉強もよくするしねえ」とか言われて泣き出した子がいたりね。「そんないいことなんか考えんと、反省しなさいっ」と怒られたり。

先生は子どもが学校で報告してきたことを全部聞いておいて、懇談会で親が来たときにその話をしたら、みんな「そういえば、うちもそうでしたわ」と大笑いになったそうです。

おとなにしても「あなたのいいところ五つ言いなさい」と言われたら困るでしょう。「いいところ」と言ってるのに、「そうですね、私はあんまり努力しないんです」とか、悪いことを言う。まあ日本人でパッパッとすぐに五つ言えるような人は、だいたい会社や近所では評判悪いんで、そこが難しい。アメリカ人だったら、平気で五つくらいパッと言います。

そんなんですから、まあときどきボーッと「うちの子どものいいところ、五つ言ってみようかしら」なんて、考えてみたらいいですよ。

そのときに「うちの子は算数で何点とってきた」なんて言わないで「うちの子は笑顔がいい」なんて言える人がいたら、なかなかのもんです。子どもの笑顔なんて計測不能でしょう。それがピタッと言えたら、いいんですねえ。「どっかの本に書いてあったから言おう」では困るけど。実際、中学生でも高校生でも、何かがうまくいったときには、やっぱりほんとにいい顔をしていますよ。笑顔のよい子は、それぞれにみんな笑顔がいいわけだから、順番はない。「よかったね」ってそれでいいわけです。これはもう絶対人に取られない。かけがえのないものです。学校の成績のように、計測できることは、せっかく一番取ったって、ちょっと失敗したら、五番にも十番にもなる。すぐ人に取られてしまいますから。

・・・・・・・・・・・・・・・・キ リ ト リ セ ン・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・ 「みなさんは、どう思われますか？」
感想をお聞かせください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....